

もりおか歴史文化館だより

13

Rekibunkan News Vol.

(2021.7.1 発行)

- ◆2020年度事業報告
- ◆館長だより「ふたば」vol.9
- ◆開館10周年を迎えて ～展覧会ポスターから振り返る10年間の歩み～
- ◆歴史文化館レポート
「もりおか歴史文化館自由研究コンクール 第2回報告及び第3回開催のお知らせ」
- ◆歴史文化館スタッフ伝言板
- ◆インフォメーション:2021年度事業予定



もりおか歴史文化館 (撮影:いわねスタジオ,2011年)

もりおか歴史文化館は2011年7月1日に盛岡城跡公園(岩手公園)の一角に開館しました。建物は旧岩手県立図書館を増改築したもので、旧岩手県立図書館の設計者は世界的に有名な建築家である菊竹清訓氏きくたけきよのり(1928-2011)です。特徴的な屋根の形状は岩手山をイメージしています。また屋根には岩手県出身で日本を代表する彫刻家である舟越保武氏ふなこしやすたけ(1912-2002)が制作した「ふたば」という棟飾りがついています。当館は2人の巨匠が作った作品の中に、さらに盛岡の歴史や文化の魅力伝えるモノ・ヒトが詰まった施設です。

第30回企画展

「漆戸茂樹没後150年 SHIGEKI —盛岡藩沿岸を測量した男—」 【担当学芸員：小原祐子】

2020年4月15日(水)～6月30日(火)

当館では、これまで歴代の南部家当主に焦点をあて「盛岡」の歴史を見直す展示を行ってきました。本展は、その一連として今まで取り上げられることが少なかった「藩士」に光をあて、一人の盛岡藩士の生涯を通じて、「盛岡」の歴史の新たな一面を発見しようと試みました。

今回取り上げた盛岡藩の実務官吏の一人である漆戸茂樹。彼が描いた天保国絵図や盛岡藩の海岸線を描いた絵図など、携わった仕事に関する資料や多くの著作などから、盛岡藩士の生き方や彼が生きた江戸時代末期の盛岡藩の様子を感じていただけるよう企画しました。

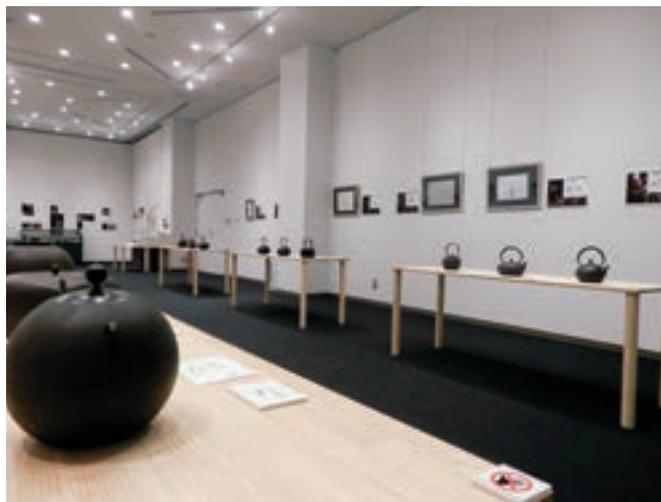


特別展「新作南部鉄器展 —鉄をつむぐ—」 【担当学芸員：小西治子】

2020年11月1日(日)～11月23日(月・祝)

ここ盛岡が、盛岡藩の城下町として栄えた江戸時代に多くの工芸品が生まれ、そのひとつである南部鉄器も藩内で鉄器づくりに必要な鉄や砂、木炭などを得られる好環境と、藩主の奨励のもと発展を遂げていきました。そして幾多の盛衰を繰り返しながら、現在も伝統の技術を守る職人たちが、その時代・暮らしにあった姿形を模索し、現在まで受け継がれています。

本展では2020年度の新作を中心に展示し、現役の職人たちが南部鉄器に込めた思いの一端を感じていただきたいと、作品の他にも制作図面や直筆のコメントもあわせてご紹介しました。



第31回企画展「災害の記憶 —盛岡藩の被災・救済・防災—」 【担当学芸員：熊谷博史】

2021年1月20日(水)～3月15日(月)

東日本大震災から10年目を迎えるにあたり、改めて災害や防災に関する意識を高めてもらうため、江戸時代の盛岡藩領（現在の岩手県・青森県・秋田県にまたがる）における災害の実態を紹介しました。災害の記憶の風化を防ぐ必要が叫ばれるなか、そもそも前近代に起こった災害については一般に知られてすらいない事象も多くあり、それらを少しでも理解してもらうため、文献資料の現代語訳や図表を多く使用するなど工夫し、展示しました。





館長だより ふたば vol.9

開館10周年を迎えて

2021年7月1日は、もりおか歴史文化館開館記念日で今年は10周年でございやす。

10年前の7月1日は青空が広がり輝くような晴れやかな日で、大きな山車を引き出して餅を撒き、にぎやかなもんでござんした。しかし、この年の3月にはあの忌まわしい忘れることができない大災害のあった年。同じ年の夏に開館ということは、被災地の復興にも力を尽くす使命を役づけられているのだと思ひやんした。

今、改めてこの10年を振り返ってみやんと、とても書ききれないたくさんの思い出がございやす。

開館当初は、タクシーに乗って館の名前を言っても「え?」と聞き返されて「前の県立図書館です」と言わないと通じなござんした。通じるようになるのに一年では無理だったように記憶しておりやす。しかし、年を追って入館者は増え、2015年9月には100万人を、2020年2月には200万人を超え、徐々に名前も知られるようになりやんした。その陰には学芸員をはじめ館のスタッフ全員一丸となつての努力がありやんした。城下町フィールドミュージアムとしての役目を果たすために企画にも知恵をしばりやんした。たとえば、この館の建物が「今世紀を創った世界建築家100人」に選ばれた菊竹清訓氏の設計によるもので、屋根棟飾り「ふたば」は舟越保武氏の作品であることも多くの市民には伝わっておらず、開館を祝っておいでくださった皆様に、岩手山をかたどった屋根をご紹介しますと「ほう!」と初めて見上げたと言ってくださりやんした。同じように盛岡の町は南部家によって作られ守られてきたといつても、16人の城主がそれぞれどのように政治を行ったかと聞かれると、恥ずかしながら私も即座には答えられなござんした。これらのことは企画展として皆様のニーズに応えることになり、入館者増加にも繋がっていったと思ひやんす。日頃から、故郷の歴史はもっと身近に日常的に触れられる環境が必要だと思ひやんした。その役目を果たすことこそ、これからも続く館の仕事だと思ひやんす。

最後に、この10年の間に館にとっては掛け替えのない先生お二人失ってしまったことを書き添えさせていただきますやす。細井計氏と金野静一氏でございやす。お二人ともご高齢ながらお元気で、その知識は豊富、明確で話し上手。講座のファンは増えるばかりでござんした。開館時から数々ご講演いただきましたことに深く感謝の心をこめて、お名前をあげさせていただきます、ご冥福をお祈り申し上げます。

改めて、10年の月日を無駄にしてはならないと強く思っているところでございやす。

雨が降ったら 歴文館

雪が降っても 歴文館

カンカン照りも 歴文館

どうぞお気軽におでつておくれつてくなんせ。

もりおか歴史文化館 館長 畑中美耶子

2011～2021年 までに開催した 全展覧会のポスター画像

MORIOKA HISTORY AND CULTURE MUSEUM

Exhibition Posters



①開館記念特別企画展
「南部家の至宝 一名品が
伝える盛岡の歴史」



②第2回企画展「あの日の
時の盛岡 一昭和レトロの世
界」



③新収蔵資料展2011



④第3回企画展「菊竹清訓
の世界 一か・かた・かたち
一」



⑤第4回企画展「安倍氏伝
一語り継がれる東北の「兵
(つわもの)」一」



⑥特別展「お菓子で笑顔に
一森永製菓の企業資料から
一」



⑦第5回企画展「あの日の
時の盛岡 一絵はがきにみる
明治・大正・昭和の風景」



⑧第6回企画展「館蔵人形展
一季節を彩る人形たち
一」



⑨第7回企画展「描かれた
盛岡藩領」



⑩第8回企画展「まねびて
学べ 一寺子屋・城下の学び
一」



⑪第9回企画展「あの日の
時の盛岡 一盛岡文士劇と
作家たち」



⑫第10回企画展「南部火
消の世界 一粋でいなせな
男たち」



⑬第11回企画展「盛岡城」



⑭第12回企画展「江戸のな
ぞなぞ 判じ絵」



⑮第13回企画展「あの日
あの時の盛岡 一馬のいた風
景」



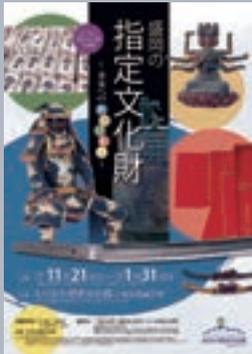
⑯第14回企画展「花づくし
一花鳥を愛でる」



⑰第15回企画展「旅の枝折
一みちのく観光のみちしる
べー」



⑱第16回企画展「あの日の時の盛岡 —なつかしの昭和—」



⑲第17回企画展「盛岡の指定文化財 —未来へのおくりもの—」



⑳第18回企画展「盛岡南部家の生き方・第1部 —乱世を切り抜けた南部家と盛岡のはじまり—」



㉑第19回企画展「南部鉄器 —時代を超えた鉄の美—」



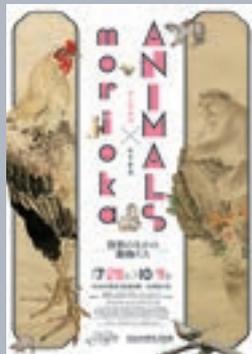
㉒第20回企画展「ひな祭り —名家に伝わるお雛様を愛でる—」



㉓第21回企画展「盛岡南部家の生き方・第2部 —揺らぐ盛岡藩に立ち向かう南部家—」



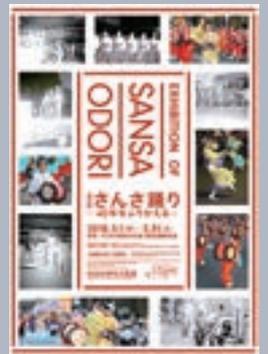
㉔特別展「安代漆工技術研究センターの歩み —修了制作で見る軌跡—」



㉕第22回企画展「ANIMALS x morioka —資料の中の動物たち—」



㉖第23回企画展「もりおか冬事情 —寒さと戦う・冬を楽しむ—」



㉗特別展「さんさ踊り —40年を振り返る—」



㉘第24回企画展「盛岡南部家の生き方・第3部 —盛岡藩の終焉と南部家が繋ぐ未来—」



㉙第25回企画展「衣装と意匠 —武家のよそおい—」



㉚第26回企画展「器百様 —土器と鉄器と食器と武器と—」



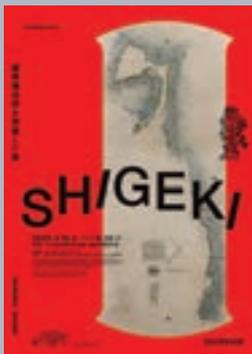
㉛第27回企画展「殿さまのギフト —贈り物にみる盛岡藩・南部家の結びつき—」



㉜第28回企画展「あやしきものども —江戸の奇譚・怪談—」



㉝第29回企画展「盛岡と北海道 —盛岡藩と蝦夷地の関係・交流史—」



㉞第30回企画展「漆戸茂樹没後150年 SHIGEKI —盛岡藩沿岸を測量した男—」



㉟特別展「新作南部鉄器展 —鉄をつむぐ—」



㊱第31回企画展「災害の記憶 —盛岡藩の被災・救済・防災—」



㊲第32回企画展「南部家のたしなみ —詠む・描く・書く—」

もりおか歴史文化館自由研究コンクール、通称「モリガク」をご存知でしょうか。

モリガクは2018年から活動を開始した歴文館サポーターズふたば(現在休止中)の事業企画部に所属していた、市内の現役高校生の提案から始まりました。

江戸時代に城下町として発展し、魅力的な歴史と文化が息づいているここ盛岡ですが、そのことを知っている、または知ろうとする若い人たちが少ないのではないかと?どうすれば若い世代に興味・関心を持ってもらえるか考えた結果、小学校で夏休み・冬休みに課題としてだされる自由研究を活かす形で始められないかという提案が挙がりました。確かに理数系は全国的にも大きなコンクールがありますが、地域の歴史や文化については、それを評価する機会や発表する場が少ない…。ならばもりおか歴史文化館がそのきっかけになれば良いということで、企画は進んでいきました。

そして2018年度に第1回、2019年度に第2回もりおか歴史文化館自由研究コンクールを開催しました。どれも盛岡の歴史や文化に対する探求心、地元への愛着が感じられる作品の数々が集まりました。遅くなりましたが応募いただいた児童の皆様、ありがとうございます!

2020年度は残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止いたしました。2021年度は対策をとり、第3回モリガクを開催する予定です。わたしたちが暮らす盛岡の魅力を多くの人に知ってもらいましょう!微力ながら当館の学芸員も「自由研究相談室」でお助けいたします。

今後も継続して開催していきたいと考えておりますので、小学生の皆様のご参加をお待ちしております。

◆第3回もりおか歴史文化館 自由研究コンクール

応募期間:8月23日(月)~9月30日(木)

作品展:10月16日(土)~10月24日(日)

※詳細は期間が近づきましたら、当館公式ホームページに情報をアップします。

◆自由研究相談室

小学生を対象に、「盛岡の歴史・文化」をテーマにした自由研究についての相談を電話(019-681-2100)で対応します。

日時:8月5日(木)~8月11日(水)

各日10:30~12:00/13:00~15:00

その他:1回のお電話につき、30分が目安となります

〈歴代の受賞作品〉

2018年度 【高学年の部】

最優秀賞「戊辰戦争と榎山佐渡」 杜陵小学校6年生

優秀賞「南部鉄器を調べよう」 山岸小学校5年生

【低・中学年の部】

最優秀賞「もりおか ものしりカルタ」 仁王小学校4年生

優秀賞「高松の池の水はどこに流れていく」 上田小学校4年生

佳作・もりおか歴史文化館 館長賞「みんな大すき わたしも大すき もりおかさんさおどりのひみつ」 北厨川小学校1年生

佳作「石川啄木の歌碑さがし」 上田小学校3年生

佳作「夕顔瀬橋の由来」 東松園小学校3年生

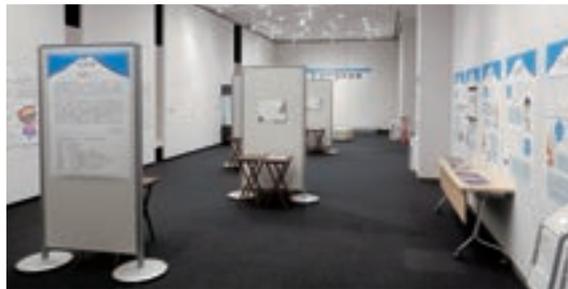
花咲賞(審査員特別賞)「城下町盛岡の成り立ち」 桜城小学校6年生

2019年度 最優秀賞「盛岡の清水の研究」 山岸小学校6年

盛岡市長賞「盛岡の先人の銅像」 東松園小学校4年生

もりおか歴史文化館 館長賞「さんさのみりよく」 城南小学校3年生

花咲賞(審査員特別賞)「盛岡さんさ太鼓パズル」 北厨川小学校5年生



「10周年目のミュージアムショップ」 【経営管理グループ:坂本弘子】

盛岡を訪れる観光客の方はもちろん、月に幾度もご来館いただきリピーターの方にも常に新鮮に感じていただけるよう、商品やレイアウトを心掛けているのですが、いかがでしょうか。

「いつ来てもなにか面白いモノがあるね」「以前お土産に買い求めたあの商品は喜ばれたから…」などというお言葉がうれしい限りです。

近年多くなってきた遠方からのお問い合わせにお応えするため、10周年を迎えるにあたり、オンラインショップを始めてみました。書籍や衣類などを中心にお買い求めいただきやすくなりました。ぜひネットのお店もお気軽にのぞいてみてください。

店頭もオンラインショップも、まだまだこれからもっと楽しく!という気概で商品の選定に取り組んでいます。お客様に喜んでいただけるよう、盛岡らしさ、歴文らしさあふれるミュージアムショップでありたいと頑張っております。スタッフ一同、心からお待ちいたしております。



もりおか歴史文化館
オンラインショップ

「開館10周年記念 新たなオリジナルミュージアムグッズが誕生」

【事業推進グループ:小西治子】

「水虎之図」に描かれたインパクト抜群の河童のトートバッグやTシャツ、「南部家歴代当主画像」から歴代藩主を抜き出した「殿さま一筆箋 一筆啓上致し候」など、これまでに当館では収蔵資料を活かしたミュージアムグッズを少ないながらも作りつづけてきました。

そして開館10周年を迎える本年、12代南部家当主南部政行の和歌を印字したオリジナル鉛筆が誕生しました。



春霞／秋立つ霧に／まがわねば／思い忘れて／鹿や鳴くらん

政行は南北朝時代の武将ですが、不明な部分が多い人物です。ある春、季節はずれに鹿が盛んに鳴くので「誰か和歌によって止めよ」と天皇から命が下ります。そこで政行が「春霞を秋の霧と間違えて鹿が鳴いているのでしょうか」と詠ったところ見事に都の鹿が静まり、その褒美として「麒麟文硯 銘 松風」(当館収蔵)を賜り、領地の橋に擬宝珠を据える許可を得たという逸話は、盛岡南部家に長く語り継がれてきました。この和歌は南部家にとって家の歴史を辿るうえでも非常に重要なものであり、この大切にされてきた和歌を鉛筆にして多くの方に知ってもらいたいという思いのもと、今回のグッズが誕生しました。

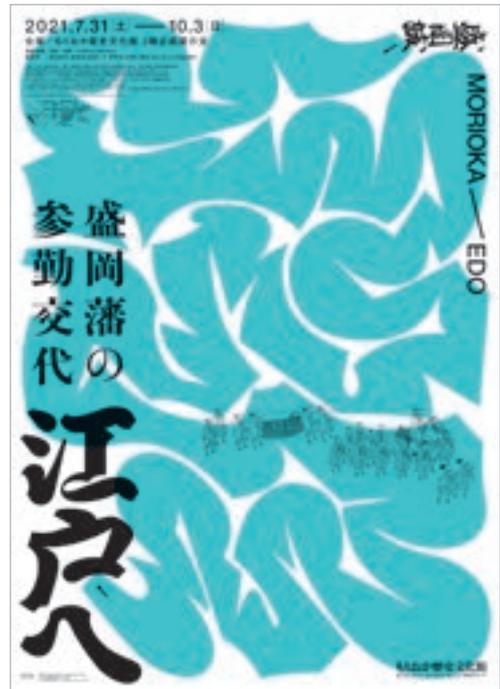
ところでなぜ鉛筆?と疑問に思われるかもしれません。ご存じの方も多いかと思いますが、多くの博物館や美術館では館内で使う筆記用具として「鉛筆」を推奨しています。理由としては例えばシャーペンシルの場合は折れて飛んだ芯が展示品や展示室を汚してしまう、万年筆やボールペンなどは落としてしまった時の先端が展示品に当たって傷つけてしまう・インクが付着してしまう恐れがあるためです。

このオリジナル鉛筆を使って、ぜひ楽しい博物館ライフを!そして南部家の和歌に親しんでいただければ幸いです。

企画展「江戸へ —盛岡藩の参勤交代—」

会期:2021年7月31日(土)~10月3日(日)

江戸時代の大名たちに課された義務「参勤交代」。制度化されたのは江戸幕府3代将軍・徳川家光の頃ですが、それ以前から大名たちによる自主的な参勤交代は行われていました。大名たちは一体なぜ、遠く江戸と国元との往復をくり返していたのでしょうか。現存する盛岡藩の参勤交代関連資料から、参勤交代の実情に迫ります。



テーマ展「盛岡藩のスポーツ —わざくらべ—」

会期:2021年7月16日(金)~10月18日(月)

江戸時代の盛岡藩の事例を中心に、日本で古くから行われていたスポーツについての資料をご紹介します。



「岩井流取組之巻」

新型コロナウイルス感染拡大防止への取組

もりおか歴史文化館では新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策(※マスクの着用、手指の消毒、体温測定など)を実施しております。来館される皆様にはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、今後の状況によっては臨時休館、展示やイベントなどを中止する場合がございます。最新の情報は当館ホームページ、SNS等でお知らせいたします。

ご利用案内

〈開館時間〉4月~10月 9:00~19:00(2階歴史常設展示室への入場は18:30まで)
11月~3月 9:00~18:00(2階歴史常設展示室への入場は17:30まで)
〈休館日〉毎月第3火曜日(祝・休日の場合は翌日) 12月31日~1月1日

〈入館料〉入館は無料です。

2階展示室のみ有料となり、右記の入場料が必要となります。

	個人	団体(20人以上)
小・中学生	100円	80円
高校生	200円	160円
一般	300円	240円

- 障がいをお持ちの方やその介護をなさる方(付添いを含めて2人まで)は、無料で入場できます。
- 盛岡市在住で65歳以上の方は、入場料が免除されますので、係員に証明書等をご提示ください。
- 盛岡市内の学校に就学している小・中学生の方は、入場料が免除されます。
- 企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要となる場合があります。

〈交通の案内〉 ●電車をご利用の場合 ○JR盛岡駅下車 徒歩20分

●バスをご利用の場合 ○岩手県交通・岩手県北バス

●車をご利用の場合 ○盛岡IC・盛岡南ICから車で25分

※当館の敷地内に一般車両の駐車スペースはございません。隣接する「盛岡城跡公園地下駐車場」(有料)など近隣の駐車場をご利用ください。



もりおか歴史文化館

〒020-0023 盛岡市内丸1番50号
Tel:019-681-2100 Fax:019-652-5296
<https://www.morireiki.jp/>